

■英国：SSE、閉鎖済石炭火力をガス火力へリプレースする計画を発表

英国の大手エネルギー事業者 SSE は 2018 年 1 月 8 日、2016 年 3 月に閉鎖した Ferrybridge C 石炭火力発電所（発電設備容量 98 万 kW）を新たにガス火力発電所としてリプレースする計画を公表した。同社は Ferrybridge D ガス火力発電所（CCGT、発電設備容量 200 万 kW）の建設を目指し、立地地域への説明を経て 2019 年 1～3 月にかけて建設申請をビジネス・エネルギー・産業戦略省（BEIS）に提出する予定としている。今回の計画には、National Grid が所有するガスパイプラインに接続するための新たなパイプライン（約 9km）の開発も含まれており、現在 3 つのルートを候補として最適ルート選定のための調査を行っている。また、専門誌によれば、現在の計画はまだ初期段階であり、2022 年までの運転開始はできそうにないことから、直近の容量市場オークションには参加できないものの、将来的には新設発電所として容量市場での 15 年に渡る容量提供契約の実現が重要となってくるとしている。なお、2018 年 1 月 5 日に政府が予想発表を行った 2025 年までの火力発電設備容量については、約 1,200 万 kW の石炭火力発電所の閉鎖が予想されている一方で、ガス火力発電所などを中心に約 750 万 kW の新設が予想されており、今回の SSE のリプレース計画もこうした政府の方針に沿ったものとなっている。